

## センター一括管理型Web版校務システムの実践事例と将来展望

愛知県愛西市立佐織西中学校 教諭 岸 稚人

E-Mail wakato\_kishi@city.aisai.lg.jp

キーワード：校務システム、センターサーバ、一括管理型

### 1. はじめに

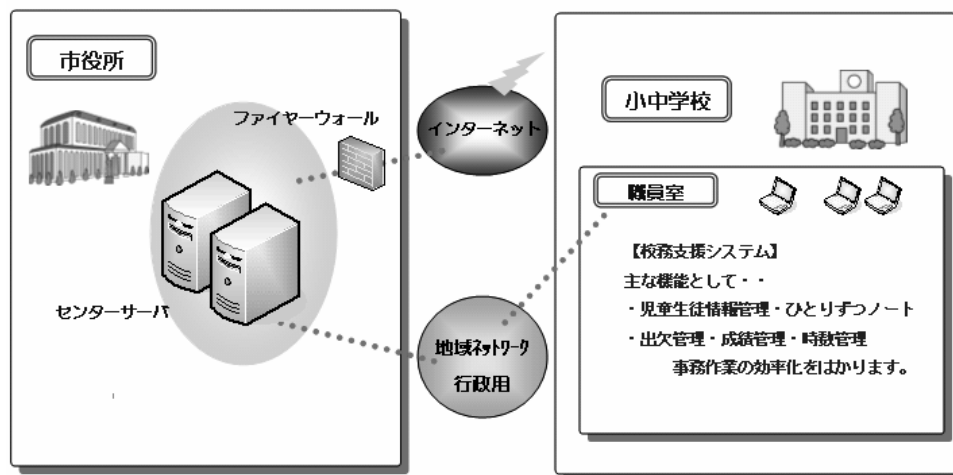
本校は、愛知県の西部に位置しており、平成17年4月1日に4つの町村が、合併して小学校12校・中学校6校の内の1校を担っている。市町村合併や小中学校の年度始めの教員の配置換えの際、よく話題となることに教育ネットワークや生徒情報の共有化、情報セキュリティ、校務における事務処理の効率化が挙げられる。

愛西市でも、これらの問題を解決しスムーズに対処していくために、「センター一括管理型Web版校務システム（以下、校務システムと表記する）」を本年度途中から採用することとした。校務システムとは、学校の基本情報（生徒・教科・時数）、出席管理、成績管理、ひとりずつノートをセンター方式で管理し、全ての教職員が操作を簡単に行なうことができ、校務における事務処理時間の短縮と効率を図るシステムである。

ここでは、9月より校務支援システムを導入している本校の実践事例と導入効果および将来展望を述べることとする。

### 2. 校務システムの主な特徴

校務システムでは、センター方式を採用しており、市役所にセンターサーバを設置し、各校から職員一人1台導入されたPCからIDとパスワードによってログインし、校務システムを操作できるようになっている（図1）。このことから市で共有のネットワークを構築する事ができた。センターサーバを通してインターネットのため、データの持ち出し、紛失、インターネットを通して外部に情報が漏洩する恐れなどを防止することができる。またアクセスに対してもログを記録している。このことは、利用者に対して不正を心理的に抑制し、また万一、漏洩が発生した場合の追跡を可能にすることができるようになった。



【 図1 校務システムの構成図 】

校務システムの機能としては次の通りである。

#### (1) 児童生徒情報

- ・児童生徒情報、保護者情報の管理
- ・クラス名簿や卒業者名簿の出力はもちろん、学年・組・出席番号など、校務システムの基礎となる情報を管理する基本システム

#### (2) 出欠管理

児童生徒の日々の出欠情報を入力・集計・出力

#### (3) 成績管理

児童生徒の成績を入力・集計し、成績表を一覧として出力  
また進路指導に必要な個人ごとの情報を閲覧

#### (4) 時数管理

教員ごと、授業ごとの授業消化数や残りの授業時間数など、授業時間数の予定と実績を管理

#### (5) ひとりずつノート

児童生徒の様々な情報を、個人単位で閲覧・入力

### 3. 実践事例

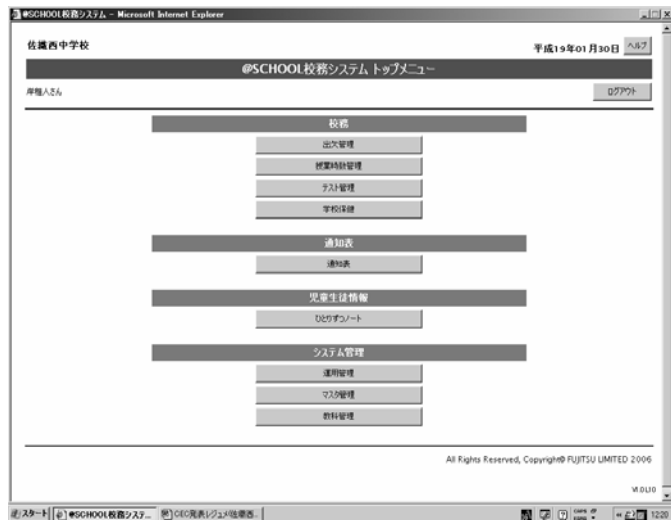
愛西市では、9月から校務システム（図2）を導入しており、本校においても順次利活用を進めている。本校は、約360人の生徒数を持つ中規模校である。その生徒情報については、今までは外部メディアに保存し金庫で管理となっていたが、システムに生徒情報を入力し一括管理することで情報漏洩の心配がなくなり、安心して生徒情報を扱うことができることとなった。

また本校は、教科担任制を取り入れているため、成績処理の際に教員ごとに、処理の仕方が異なっており、成績の集約や一覧表作成に時間が掛かっていた。しかし、システムを導入したことで、成績処理方法が統一され、集約・閲覧・出力に時間を掛けずに行なうことができるようになった。

出欠管理では、「各クラスの出欠状況」「個別の出欠状況」「月別の出欠状況」などさまざまな状況に

合わせた出欠データを取り扱うことができ、欠席状況に合わせた細かな生活・保健指導を行なうことができるようになった。

時数管理では、9月からの導入のため一部教員での試用期間ではあるが、授業消化数や時間数の予定数などが記入できるため、教科の年間指導計画における進捗調整や、授業時間の格差の解消に活用し、状況に即した形で授業を進めることができるようになった。



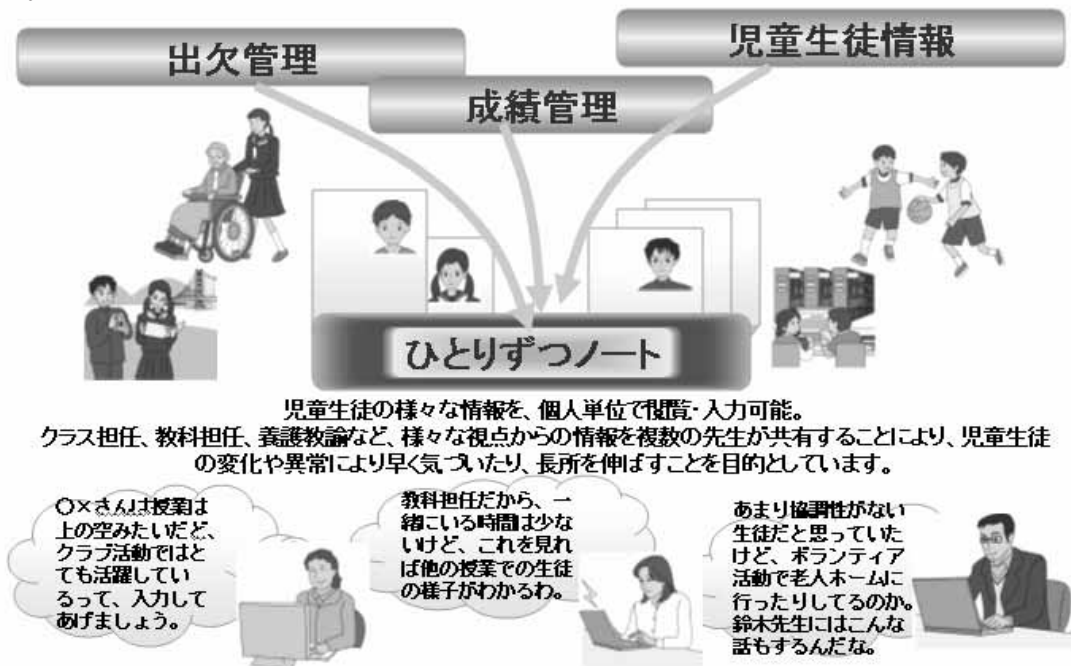
【 図2 校務システムのメインメニュー画面 】

### 4. 導入後の効果と今後の将来展望

今回の校務システムは、先に述べたような問題に対処するために導入されたが、その効果は、以下の3点である。

- ・ 校務における事務処理時間の効率の向上
- ・ 個人情報の取り扱い及び情報漏洩防止に対する意識の向上
- ・ ネットワークを構築することにより、生徒情報および成績処理の一元化と共有化

校務システムには「ひとりずつノート」という機能が備わっている。将来の展望としては、この機能を活用することによって、中学校では、図3のように多くの教師の目を通して、個々の生徒の様子を把握し、それをきめ細かな指導に活用できるのではないかと考える。



【 図3 「ひとりずつノート」イメージ図 】